DM-3200 Release Notes

目次

D00992210C

ファームウェアアップデート時の留意点

カスケード接続されているDM-3200のファームウェアアップデートを行う時は、必ずカスケードケーブルを外してから行ってください。

取扱説明書の訂正

記載漏れ事項

- SHIFT Key + STOP keyを押す事でトランスポート・キーをロックする事ができます。(Version 1.00より対応済み)
- OL/STATUS LED TypeがCH INPUTの時は、インプット・チャンネル系はモジュール・インプットポイントのレベルのモニターを行います。マスター・モジュールはインプット部にメータリング・ポイントがありませんので、METER/FADER画面で選択されているポイントのモニターを行います。

記載誤り

- ブロックダイアグラムに誤りがありました。
  修正版は、Web（ **http://www.tascam.jp/** ）よりダウンロードしてください。

- STEREO ModuleからCRへ送られる信号の取り出し位置に誤りがありました。
  誤）Dither後
  正）Delay後
- CR Outputの出力形式に誤りがありました。
  誤）＋4dB Pseudo Balance
  正）＋4dB Balance
- Assignable Sendsレベルに誤りがありました。
  誤）＋4dBu Pseudo Balance
  正）－2dBu Pseudo Balance
- EQ全てのバンドにて周波数範囲に誤りがありました。
  誤） 31Hz - 19Hz
  正） 31Hz - 19kHz
- 周波数特性仕様に誤りがありました。
  誤） 20Hz～40kHz（88.2/96kHz)、
  ＋0.5dB / － 1.0dB
  （MIC/LINE IN → STEREO OUTPUT ＊）
  正） 20Hz～40kHz（88.2/96kHz)、
  ＋0.5dB / － 1.5dB
  （MIC/LINE IN → STEREO OUTPUT ＊）

新機能

V1.70の追加

- IF-AV/DM（Aviom A-Net16カード)、およびIF-CB/DM（CobraNetカード）に対応しました。

設定の詳細については、IF-AV/DM、IF-CB/DMの取扱説明書をご参照ください。

V1.50の追加

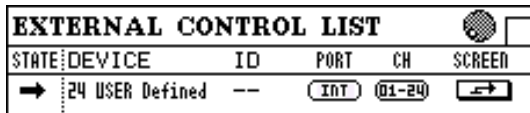
＊User Defined Layer

DM-3200の各モジュールを自由に組み合わせたユーザー定義のレイヤーを作ることができます。
このレイヤーにアサインされたモジュールのフェーダーコントロール、ミュート、ソロ、リング、エンコーダーなどのパラメーターのリモート操作ができます

User Defined Layerの登録

REMOTE→EXT.CTRL画面でUser Defined Layerを登録します。

EXTERNAL CONTROL LIST

STATE	DEVICE	ID	PORT	CH	SCREEN
➡	24 USER Defined	--	INT	01-24	⮐

ID, PORT, CHの設定は、ありません。

User Defined Layer画面

EXT.CTRL画面のSCREENボタンにカーソルをあわせてENTERキーを押します。 POD4キーでUser Defined Layerを選択するとUser Defined Layer画面を表示します。
また、OPTION→PREFERENCE画面のSEL Key Follows Fader Layer Statusをチェックしている場合は、LAYER STATUSセクションのREMOTEキーを押すとUser Defined Layerを表示します。

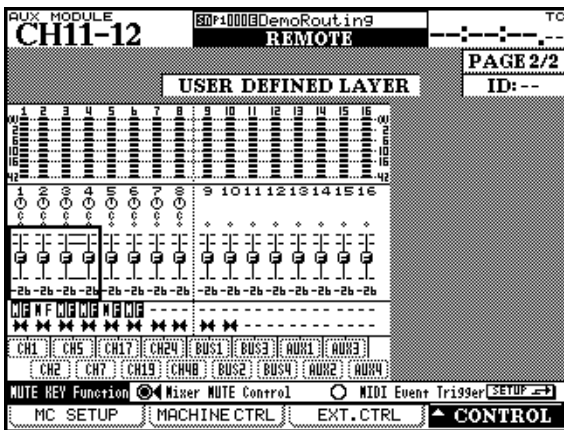
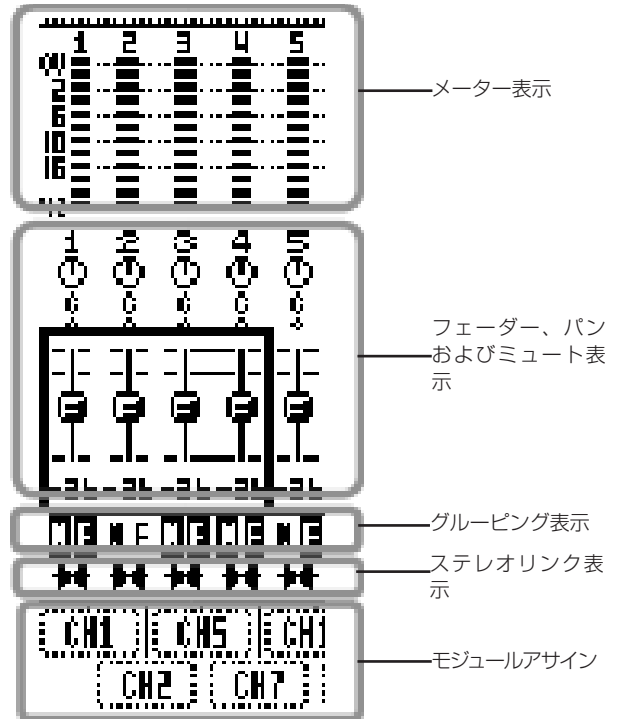



図 1　USER DEFINED LAYER画面

設定されたモジュールの以下の機能のモニターができます。

メーター
フェーダー、パンおよびミュート
グルーピング設定
ステレオリンク設定

メーターポイントは、METER/FADER→METER画面で選択されているポイントを表示します。
カーソルキーまたは操作したいチャンネルのSELキーを押してカーソルを移動し、フェーダー、パンのPODつまみでの操作もできます。

グルーピング設定は、以下のような意味を持ちます。

- M :ミュートグループマスター、グルーピングオン
- M : ミュートグループマスター、グルーピングオフ
- F : フェーダーグループマスター、グルーピングオン
- F : フェーダーグループマスター、グルーピングオフ
- \- : グループマスター以外

マスターチャンネルのみ表示され、スレーブは表示されません。
ステレオリンク設定は、以下のような意味を持ちます。

- ⧓ : ステレオリンクオン
- \- : ステレオリンクオフ

カーソルをモジュールアサインセクションへ移動し、JOG/DATAダイアルでアサインしたいモジュールを選択し、ENTERキーを押して確定します。
チャンネル 1-48、BUSS 1-16、AUX1-8のモジュールのアサインができます。STEREOモジュールのアサインは、できません。

＊MUTE Key Function

MUTEキーをミキサーパラメーターのMUTE操作子として使用するか、MIDIイベントトリガキーとして使用するかを選択できます。MIDIイベントトリガとして使用する場合は、MIDIコントロールチェンジメッセージの出力ができます。
MIDIイベントトリガキーとして使用する場合は、MUTE KEY Functionセクションのラジオボタン MIDI Event Triggerへカーソルを移動してENTERキーを押して確定します。

MIDI Event Trigger時のMIDI コントロールメッセージ

MIDIイベントトリガキーとして使用する時のコントロールチェンジメッセージは、MIDI→CtrlChg EXT画面で設定します。

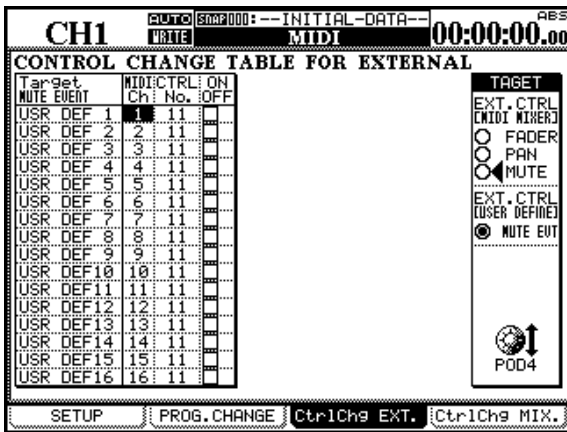



図２　MIDI→CtrlChg EXT画面

MUTE Key FunctionセクションのSETUPボタンにカーソルをあわせてENTERキーを押しても、この画面にジャンプします。
コントロールチェンジメッセージのデータバイトはMUTE Keyを押したときに127（7Fh）、MUTE Keyを離したときに0（00h）が出力されます。

MIDI→SETUP画面フィルタリング

MIDIイベントトリガ対応にともない、USB MIDI 4: PC/CCポートにC.Chg EXTのフィルターが追加されました。

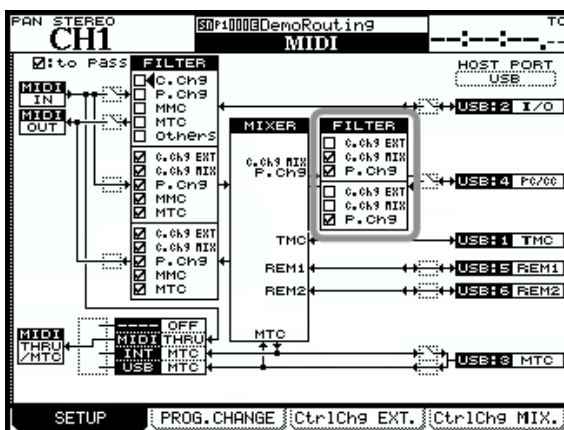



図３　MIDI→SETUP画面

＊メーター表示

User Defined Layerのメーター表示は、User Defined Layer画面にも表示されますが、METER/FADER→METER画面にも表示できます。

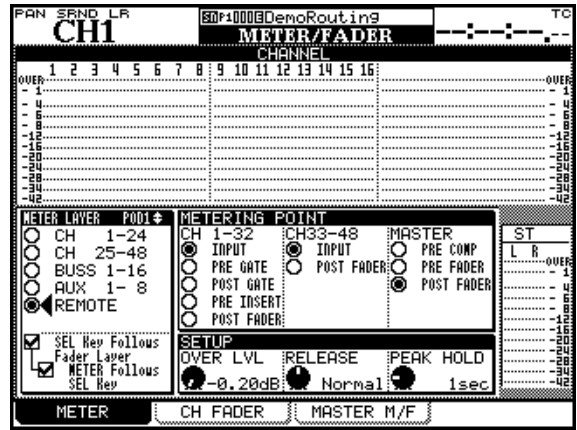
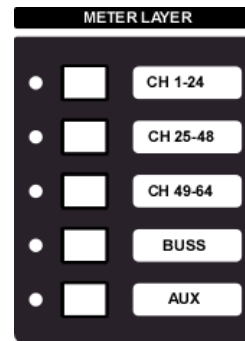



図４　METER/FADER→METER画面

POD1でカーソルをREMOTEボタンへあわせるとUser Defined Layerのメーターが表示されます。

メータブリッジでの表示

別売りのオプションメーターユニットMU-1000でもUser Defined Layerのメーター表示ができます。
MU-1000のメータリングポイントセクションには、REMOTEポイントがありません。
METER LAYERセクションのLEDが全消灯の時がREMOTEレイヤーのメーター表示になります。

REMOTEレイヤーへの切り換えは、METER/FADER→METER画面で行ってください。
OPTION→PREFERENCE画面のSEL Key Follows Fader Layer StatusとMeter Follow SEL Keyをチェックすることにより、LAYER STATUSをREMOTEに切り換えるとMeter画面も追従します。

＊TASCAM FX2.0 対応

DM-4800 で搭載されている TASCAM FX2.0 が DM-3200 でも使用可能になりました。

TASCAM FX2.0 マルチエフェクトには、コーラス、フランジャー、ディエッサー、ディレイ、ディストーション、コンプレッサー、フェーザー、ピッチシフターが搭載され、数多くのプリセットが用意されています。

各々のタイプの詳細、プリセットライブラリについては[エフェクトリスト]をご覧ください。

TASCAM ホームページからもダウンロードできます。

http://www.tascam.jp/index.html

TASCAM FX2.0 のリコール

TASCAM FX2.0 のリコールは、LIBRARY→EFFECT 画面にて行います。

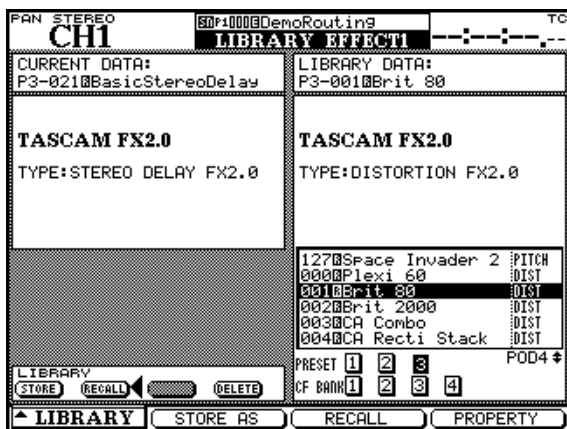



図 5 LIBRARY→EFFECT1 画面

TASCAM FX2.0 の各種エフェクトのプリセットは、エフェクトライブラリーのプリセットバンク 3 に納められています。
このプリセットバンク 3 から本機に搭載されている 2 台のエフェクター DSP に呼び出して使います。
2 台同時に TASCAM FX2.0 を使用することも可能です。

＊Windows Vista

Windows Vista 32 ビットおよび 64 ビットに対応しました。

Windows Vista 対応の DAW アプリケーションなどのリモートコントロールや MIDI メッセージの入出力を行うことができます。

＊TASCAM FX Compressor の GR meter 表示

従来より搭載されている TASCAM FX のコンプレッサー使用時にゲインリダクション・メーター表示を追加しました。
ギターコンプレッサーおよびコンプレッサーをリコールしたときに EFFECT 画面に表示されます。

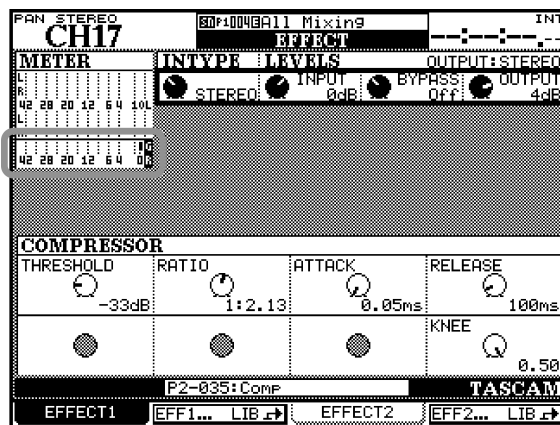



図 6 TASCAM FX コンプレッサーリコール時の EFFECT 画面

＊DAW コントロール画面 1-16 チャンネル一画面表示

各々の DAW コントロール画面において 16 チャンネルを一画面で表示できるようになりました。
下図は、Logic コントロール用の画面例です。

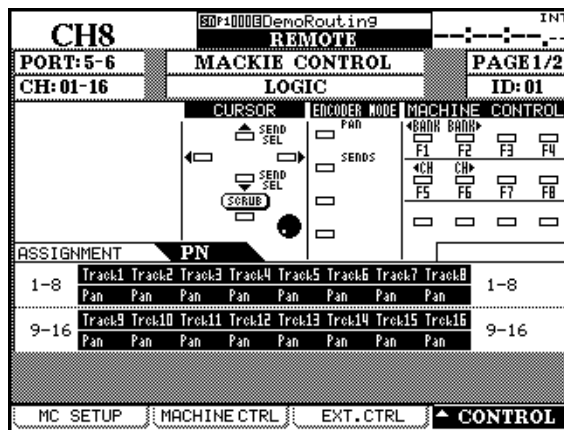



図 7 Logic コントロール用の画面例

V1.30の追加

＊IF-FW/DMMKⅡ対応

別売りのオプションカード：IIF-FW/DM MKⅡを装着することにより、パソコンとDM-3200間で最大32入力／32出力（44.1/48/88.2/96kHz時）のオーディオデータの伝送ができるようになりました。
IF-FW/DM MKⅡの詳細については、IF-FW/DM MKⅡの取扱説明書をご覧ください。

＊TDIF Hi-Speed対応

ハイサンプリング（88.1/96kHz）時にTDIF-1 1-3および別売りのオプションカードIF-TD/DMのハイスピードモードに対応しました。ハイサンプリング時もTIDF-1 1系統で8入力/8出力のオーディオデータの伝送が可能になります。

TDIF-1 1-3

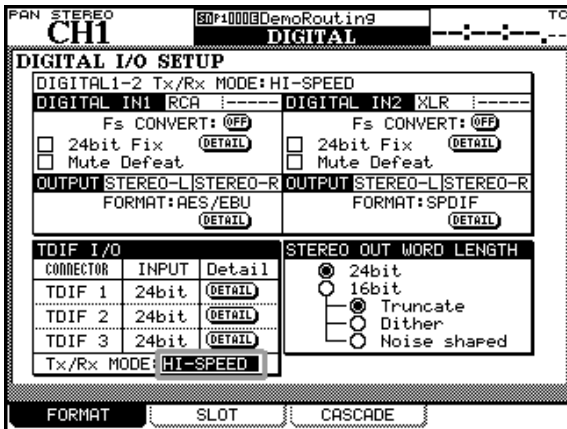



図8 DIGITAL→FORMAT画面

DIGITAL→FORMAT画面のTDIF I/O Tx/Rx MODE部でTDIF-1 1-3のハイスピード／デュアルラインの切り換えができます。この切り換えは、TDIF-1 1-3一括切り換えになります。
ハイスピード設定時は、ROUTING画面で各TDIF端子の1-8入出力が選択可能になります。デュアルライン設定時は、各TDIF端子の1-4入出力のみが選択可能です。
TDIFの転送モードをハイスピードからデュアルラインに切り換えたときは、ROUTING→INPUT画面でTDIFを選択しているチャンネルの入力選択設定を再度行ってください。

IF-TD/DM

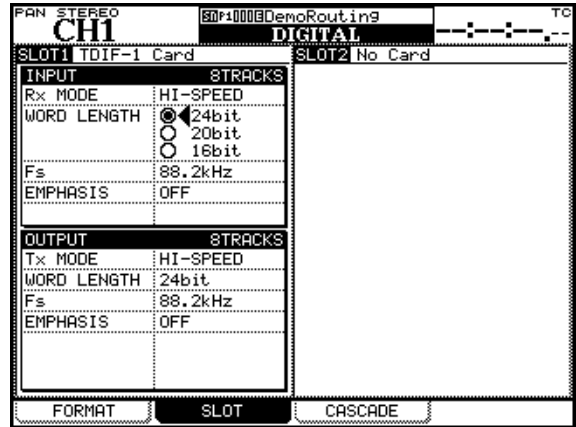



図9 DIGITAL→SLOT画面

DIGITAL→SLOT画面のTDIF-1 Card画面にHI-SPEEDと表示されます。
IF-TD/DMはハイスピードのみ対応で、デュアルラインには対応していません。

＊MIDI

ミキサーパラメーターのMIDIコントロールチェンジメッセージ対応

MIDIコントロールチェンジメッセージによる、ミキサーパラメーター（フェーダー、パンおよびミュート）のコントロールに対応しました。
これによりミキサー本体の操作と同期してMIDI機器のコントロールすることや、逆にMIDI機器からミキサーパラメーターをコントロールすることができます。
MIDI→CtrlC h g MIX画面のCOTRNOL CHANGE TABLE FOR MIXER上でコントロールメッセージ番号のアサインを行います。

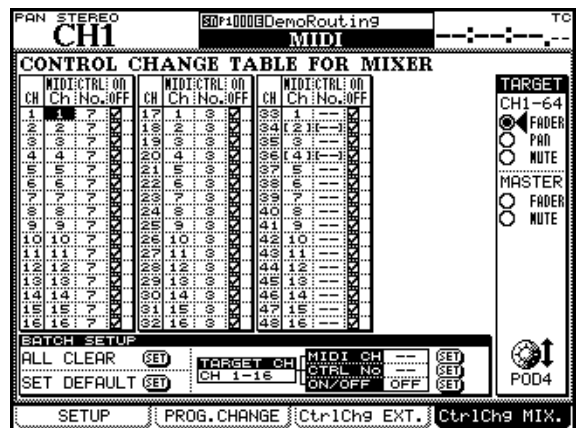



図10 MIDI→CtrlChg MIX画面

この画面の操作方法は、MIDIミキサーの設定方法（14ページ）と同様ですので、詳しくはそちらをご覧ください。
BATCH SETUPを使用すると16チャンネル毎の一括設定ができます。

MIDI→SETUP画面フィルタリング

ミキサーパラメーターのMIDIコントロールチェンジ対応にともない、USB MIDI 4: PC/CCポートにフィルターが追加されました。

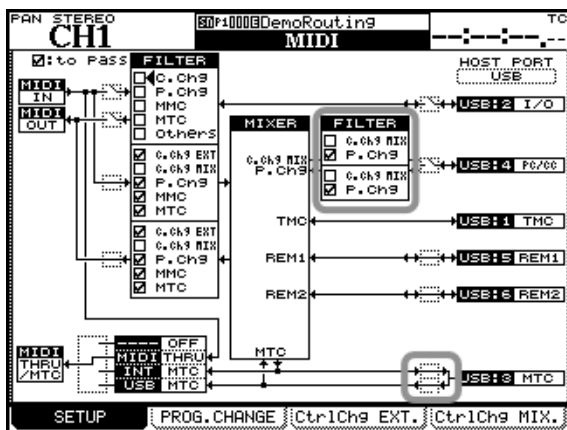



図 11　MDI→SETUP画面

MIDIタイムコード用のUSB MIDIポート3の入出力のOn/Off設定が入出力一括になっていましたが、独立して設定できるようにしました。

MIDI Device Inquiryメッセージ対応

下記のMIDIポートに外部機器よりIdentity requestされたときに、以下のIdentity replayメッセージを送信するようになりました。

F0 7E 00 06 02 4E 07 01 00 06 v1 v2 pp 00 F7

v1 ：Major version number of firmware

v2 ：Minor version number of firmware

pp ：MIDIポート ID

00 : 本体MIDI IN/OUT

04 : USB MIDI 4 : PC/CCポート

05 : USB MIDI 5 : USB REMOTE 1ポート

06 : USB MIDI 6 : USB REMOTE 2ポート

＊オペレーション

Moduleパラメーターのコピー機能

任意のモジュールから他のモジュールへのモジュールパラメーターのコピーが可能になりました。

PARAM COPY設定

UTILITY→PARAM.COPY画面を表示します。この画面のMODULE TO MODULEセクションで行います。

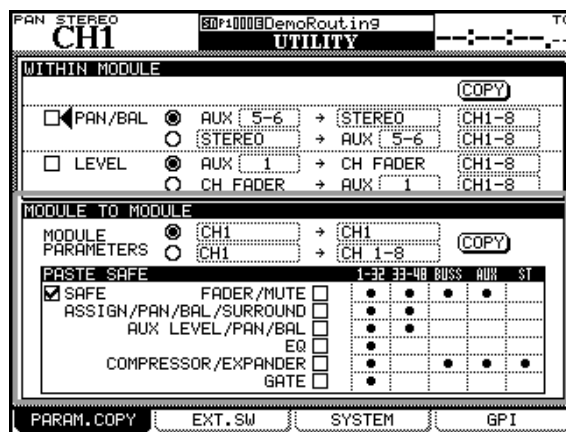



図 12　UTILITY→PARAM.COPY画面

1. MODULE PARAEMTERS部の上は、単一モジュールから単一モジュールのコピー、下は単一モジュールから複数モジュールへのコピーを行います。ラジオボタンでどちらかを選択します。
2. カーソルキーで移動し、JOG/DATAダイヤルでコピーしたいモジュール（左側）を選択し、ENTERキーで確定します。同様にコピー先のモジュール（右側）を選択します。
3. COPYボタンにカーソルを合わせてENTERキーを押します。
   確認のポップアップメッセージが表示されます。
4. ENTERキーを押すとコピーが実行されます。
   キャンセルするときは、いずれかのカーソルキーを押します。

PASTE SAFE

PASTER SAFEセクションでペーストされるパラメーターの選択ができます。
四角いチェックボックスがチェックされているパラメーターは、ペーストされません。
CHANNELからBUSS, AUXなどのマスター系のモジュールへのコピー／ペースト、またはその逆も可能です。このとき、コピー元にあってペースト先にないパラメーターはコピーされず、ペースト前のままになります。コピー元になくてペースト先にあるパラメーターも同様です。
右側の●は、そのモジュールに装備されているパラメーターを表します。

メ モ

モジュール機能には、DIGITAL TRIMのような、この右側のリストに無いパラメーターもありますが、リストに無いパラメーターはコピー／ペーストされません。

BUSS パンモードの一括設定

ASSIGN→BUSS 画面に BUSS PAN MODE BTCH SETUP が追加され、BUSS パンモードの一括設定ができるようになりました。

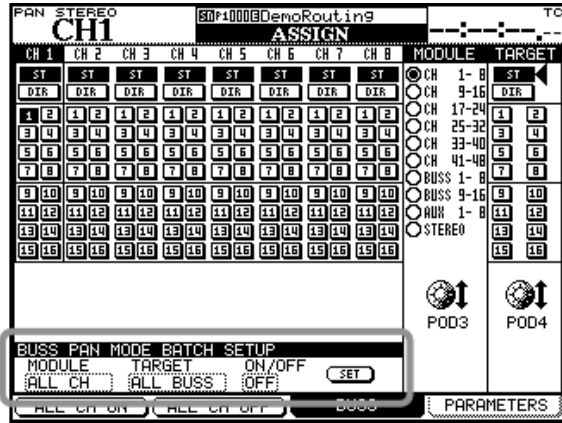



図 13 ASSIGN→BUSS 画面

1. カーソルを移動して、MODULE でチャンネル、パンモードを変更したい BUSS 、ON/OFF で On/Off 設定を選択します。
2. SET ボタンへカーソルをあわせて ENTER キーを押します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。
3. ENTER キーを押すとコピーが実行されます。
キャンセルするときは、いずれかのカーソルキーを押します。

Meter OVER レベルの設定

METER/FADER→METER 画面でオーバー点灯レベルの微調整ができるようになりました。

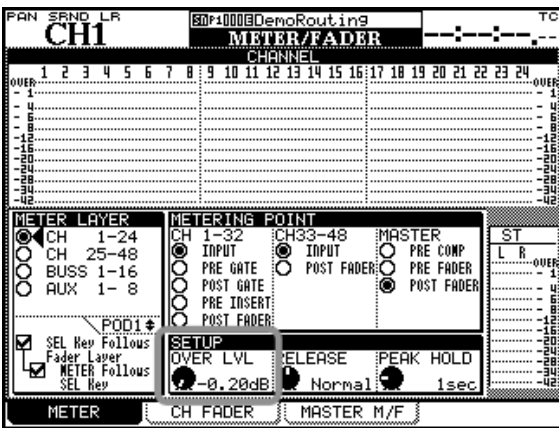



図 14 METER/FADER→METER 画面

POD2 つまみを使って、オーバー点灯レベルを以下の中から選択します。

－0.20、－0.17、－0.13、－0.10、－0.06、－0.03

マルチコントロール画面表示時のカーソル位置

AUX1-2 画面のようなマルチコントロール画面を表示した時にカーソル位置が SEL キーで選択されているモジュールに移動するように改良しました。

MUTE クリアの追加

SHIFT キーや CTRL キーを押しながら MUTE キーを押す事でチャンネルモジュールの MUTE を一括で解除できるようにしました。

SHIFT キー + MUTE キー：現在選ばれているチャンネルレイヤーの MUTE オンを解除

CTRL キー + MUTE キー：全てのチャンネルレイヤーの MUTE オンを解除

BUSS, AUX, STEREO などのマスターモジュールでは、この機能は働きません。

メ モ

SOLO も同様の方法で一括解除できます。

＊オートメーション WR-RHS 表示追加

オートメーションでライトリハーサル中にカレントチャンネルをライトした時に LCD 画面上部のオートメーションステータス表示エリアに [WR-RHS] と表示し、リハーサル中であることを表示できるようになりました。

＊リモートコントロール

P2 プロトコルでの X-48 リモートコントロール

P2 プロトコルを使って X-48 をトランスポートコントロールできるようになりました。

REMOTE→MACHINE CTRL 画面のサポートデバイスの中の MM/MX-24/X-48 を選択します。

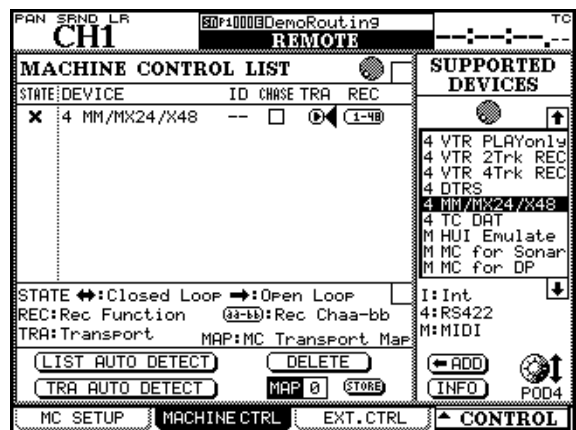



図 15 REMOTE→MACHINE CTRL 画面

REC Function は、1-48 が設定できます。

マシンコントロール画面サポート機器リストへのスクロール表示追加

マシンコントロール画面右側のサポート機器リストが画面に収まらなくなったため、矢印が上下に追加され、機器を選択する時にスクロール可能な方向を表示するようにしました。

MMC コマンドタイプの追加

DM-3200からJOG操作時に送信するコマンドをコントロールされる機器に合わせることができます。Search（46h）またはStep（48h）を選択できます。
詳細については、コントロールされる機器の取扱説明書をご覧ください。
REMOTE→MC SETUP画面のMMC Command Typeにて設定を行います。

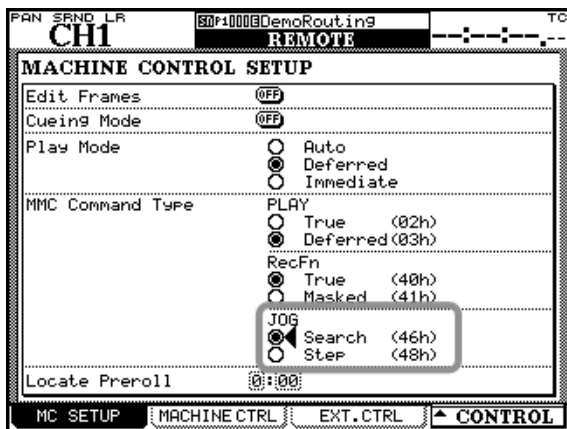



図 16 REMOTE→MC SETUP画面

ロケートポイントEDIT時のLOCATEコマンド送信

トップパネル上のMACHINE COTROLセクションにあるEDITキーを使用してロケートポイントを入力／編集したときに、メモリーへの登録を確定させるためにENTERキーを押したときに、同時にLOCATEコマンドを出力するようにしました。

ロケートポイント編集と同時に接続された機器をロケートさせることができます。

V1.20の追加

＊FireWire対応

別売のIF-FW/DM FireWireインタフェースカードをDM-3200の**SLOT 1**に装着することにより、パソコンとDM-3200間でオーディオデータの伝送ができます（**SLOT 2**には装着できません）。
下図は、IF-FW/DMカードを**SLOT 1**に装着したときの画面表示例です。

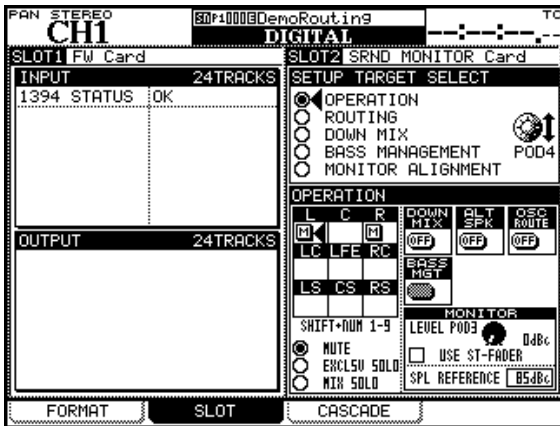



図１：IF-FW/DMとIF-SM/DMを装着時のSLOT画面

詳細については、IF-FW/DMリリースノートをご覧ください。

＊サラウンド機能の拡張

別売のIF-SM/DM サラウンドモニターカードを装着することにより、サラウンドモニター機能を拡張できます。
上図は、IF-SM/DMカードを**SLOT 2**に装着したときの画面表示例です。
詳細については、IF-SM/DMに付属の取扱説明書をご覧ください。

＊ミキサー名の設定

ミキサー名を設定／編集することができます。

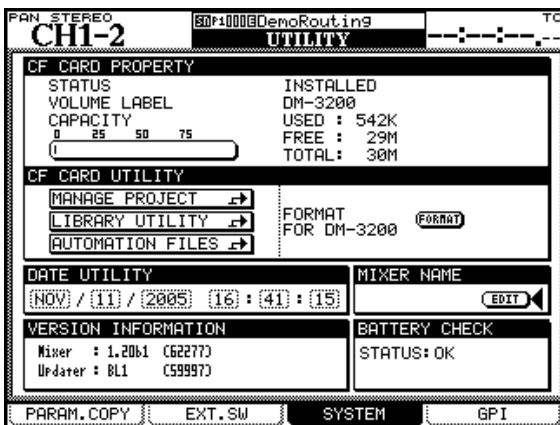



図２：UTILITY→SYSTEM 画面

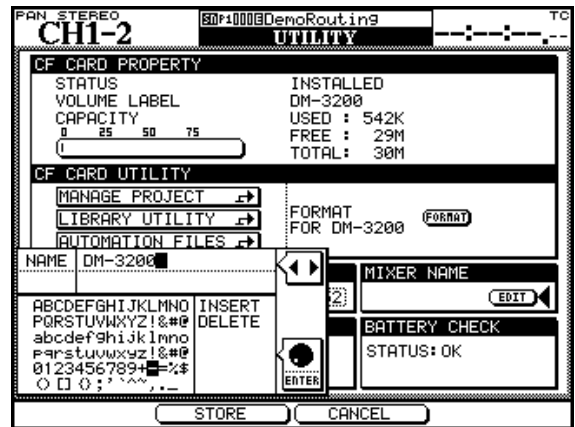



図３：ミキサー名編集ポップアップ画面

1. UTILITY→SYSTEM画面内のMIXER NAMEセクションのEditスイッチへカーソルを合わせて、ENTERキーを押します
2. 希望の名前を設定します。
   名前の設定方法については、DM-3200取扱説明書「ライブラリーデータに名前を付ける」（32ページ）をご参照ください。
3. 名前を入力したら、POD2キー（STORE）を押すと、名前が確定します。
   ポップアップ画面が消え、入力した名前がMIXER NAMEセクションに表示されます（下図は名前を**“DM-3200”**に設定した場合）。

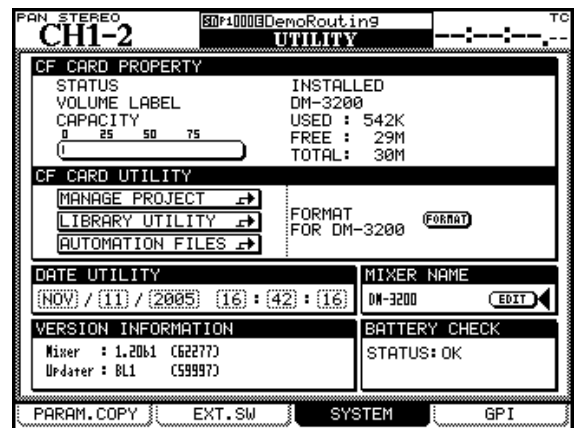



図４：ミキサー名を“DM-3200”に設定した
UTILITY→SYSTEM画面

メモ

POD3キー（CANCEL）を押すと、入力がキャンセルされます。

＊MMCによるリモート操作

MMC（MIDIマシンコントロール）を使って、DM-3200から外部トランスポートをコントロールできるようになりました。
コミュニケーションポートには、MIDI IN/OUT端子を使います（USBポートは使用できません）。
外部機器コントロールの設定は、REMOTE→MACHINE CTRL画面を使って行います。詳細については、取扱説明書「トランスポートコントロールする機器の設定」（101ページ～）をご覧ください。MMCによるトランスポートコントロールをサポートしたことにより、101ページの「図8.3：トランスポートコントロールをサポートしている機器」に以下が追加されます。

機器	画面リスト表示	送受信ポート
MMCオープンループ	MMC Open	M
MMCクローズドループ	MMC Full	M

図5：Ver 1.20で追加されたトランスポートコントロールをサポートしている機器

＊MIDIコントロール

MIDIコントロールチェンジおよびプログラムチェンジメッセージを使って、DM-3200からMIDI機器のコントロール（MIDIフェーダー、MIDIコントローラー、MIDIミキサー）ができるようになりました。

接続

DM-3200とMIDI機器のMIDI IN端子－MIDI OUT端子間を、双方向に接続します。

MIDIコントロールするデバイスの設定

REMOTE→EXT.CTRL画面を使ってMIDIコントロールの設定を行います。

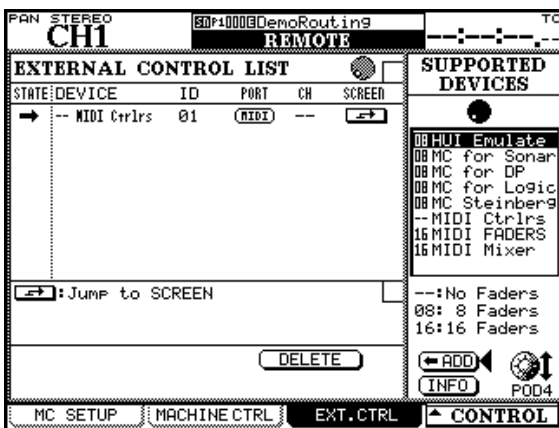



図6：REMOTE→EXT.CTRL画面

デバイスの登録

左側のEXTERNAL CONTROL LISTは、最初は空白です。ここに以下の手順でデバイスを登録します。

1. POD4つまみ（またはJOG/DATAダイアル）を使って、デバイスリスト（SUPPORTED DEVICES）の中から希望の項目（MIDIコントロールの場合は、MIDI Ctrlrs、MIDI FADERSまたはMIDI Mixer）を反転表示します。
2. 選択した後、⬅ADDにカーソルを合わせてENTERキーを押すと、画面左側の外部コントロールリスト（EXTERNAL CONTROL LIST）に機器が登録されます。

メモ

選択機器の情報を見たいときには、INFOボタンにカーソルを合わせてENTERキーを押すと、選択しているタイプの接続機器に関するポップアップメッセージが表示されます。

外部コントロールリスト上での表示／設定

MIDIコントロールを登録した場合のリスト上の各コラムの表示／設定は、以下のようになります。

STATE：オープンループ接続であることを示す➡が表示されます。

DEVICE：コントロール信号の送受信チャンネル数およびデバイス名が表示されます。MIDIコントロールの場合は、送受信チャンネル数は16です。

ID：MIDIコントローラーの場合はコントロール対象機器の送信MIDIチャンネルを表示、MIDIフェーダーの場合はMIDIコントロールチェンジメッセージ番号（0～119）を表示、MIDIミキサーの場合は表示がありません。

PORT：出力ポートを表示します。MIDIコントロールの場合は、自動的に **"MIDI"** が表示されます。

CH：フェーダーレイヤーで使用するチャンネルを表示します。MIDIコントローラーの場合は **"--"** を表示、MIDIフェーダーやMIDIミキサーの場合は **"1-16"** を表示します。

デバイス専用画面へのアクセス

EXTERNAL CONTROL LISTに登録された各デバイスの専用画面にジャンプするには、SCREENコラムの“Jump to SCREEN” ボタンにカーソルを合わせてENTERキーを押します。

メモ

画面右下の“CONTROL”ボタンを使って各デバイスの専用画面を開くこともできます。

1. POD4キーを押します。
   登録されているデバイスがプルアップ表示されます。

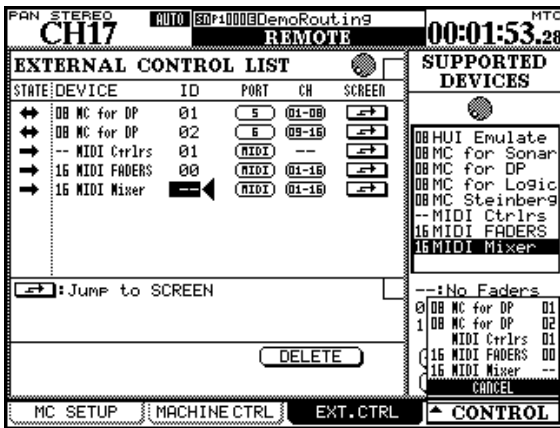



図7：デバイス切替プルアップ表示画面

2. POD4つまみを使って希望のデバイスを選択します。
3. POD4キーを押して確定します。

以下に、各MIDIコントロールのデバイスの専用画面について説明します。

＊MIDIコントローラー

DM-3200のPODつまみを使ってMIDIコントロールチェンジメッセージを送信することができます。

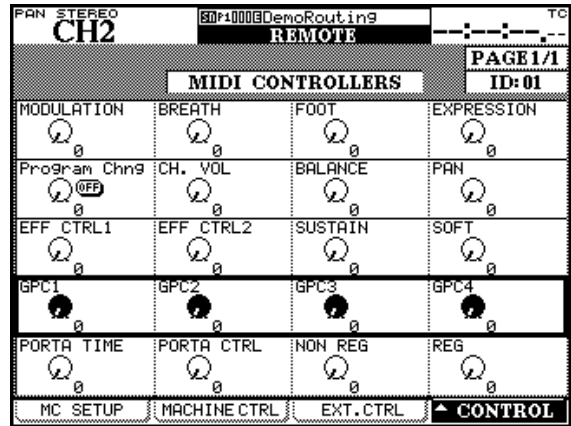



図8：MIDI CONTROLLERS画面

MIDI CONTROLLERS画面には、一般的なコントローラーを用意してあります。カーソルキーで操作対象（太枠ボックス）を移動し、PODつまみを使ってMIDIコントロールチェンジメッセージを送信します。MIDI CONTROLLERS画面表示中、LAYER STATUSの設定に関わらず、常に操作することができます。
また外部MIDI機器からコントロールチェンジメッセージを受信すると、その値が反映されます。

＊ MIDI フェーダー

DM-3200のフェーダーを使って、外部MIDI機器の全16MIDIチャンネルに対してMIDIコントロールチェンジメッセージを送信することができます。

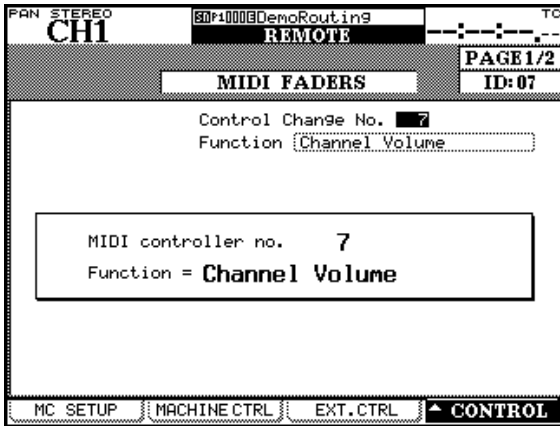



図9：MIDI FADERS画面

この画面でMIDIコントロールチェンジ番号の選択／設定を行うことができます。
上の画面例のように、MIDIボリューム（コントロールチェンジ7）がよく使われます。これによって最大16台のMIDI機器のボリュームを本機からコントロールすることができます。LAYER STATUSでREMOTEを選択中でMIDI FADER画面表示中のみ、操作可能です。
また外部MIDI機器からメッセージを受信すると、その値がDM-3200のフェーダーに反映されます。

＊ MIDI ミキサー

DM-3200のPODつまみ、フェーダーおよびMUTEキーを使って、外部MIDI機器に対してMIDIコントロールチェンジメッセージを送信することができます。デフォルト設定では、パン、フェーダーおよびミュートをそれぞれコントロールします。

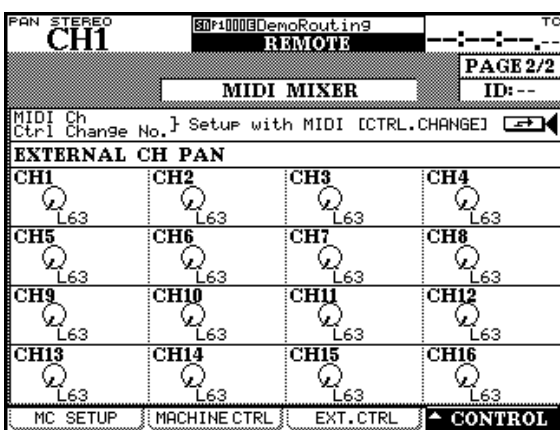



図10：MIDI MIXER画面

LAYER STATUSでREMOTEを選択中でMIDI MIXER画面表示中のみ、操作可能です。画面には（デフォルトで）パン状態が表示され、PODつまみを使って値を設定できます。また、外部MIDI機器からコントロールチェンジメッセージを受信すると、値がDM-3200のPODつまみ、フェーダー、MUTEキーに反映されます。

メ モ

LAYER STATUS:REMOTE時にENCODER MODEでパンを選択中、リングエンコーダーを使ってパンをコントロールできます。

設定の変更

各PODつまみ、フェーダーおよびMUTEキーにデフォルトで割り当てられているMIDIチャンネル、コントロールチェンジ番号、およびオン／オフ状態を変更することができます。
変更は、MIDI→CTRL.CHANGE画面で行います。

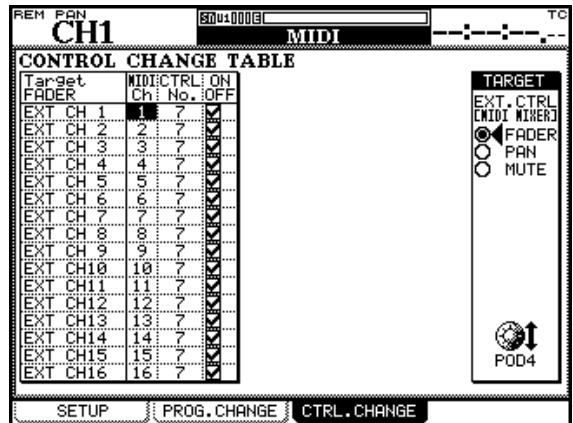



図11：MIDI→CTRL.CHANGE画面

この画面を表示するには、MIDIキーを押してからPOD3キーを押す（あるいはMIDIキーを押していく）か、あるいはMIDI MIXER画面の右上の“Jump to SCREEN”ボタンにカーソルを合わせてENTERキーを押します。
画面右のTARGETセクションでPOD4つまみを使って、設定変更を行う操作子（FADER、PANまたはMUTE）を選択します。
画面左には、選択中の操作子（チャンネル1～16）のMIDIチャンネル、コントロールチェンジ番号、およびオン／オフ状態を示す表が表示されます。
カーソルキーを使って設定項目を選び、JOG/DATAダイアルを使って値を選択し、ENTERキーを押して確定します（オン／オフ設定はENTERキー押しのみ）。

メ モ

- 同じMIDIチャンネルが割り当てられている操作子チャンネルに対して、同じコントロールチェンジ番号を設定することはできません。、
- コントロールチェンジ番号は以下の中から選択できます。
  1～5、7～31、64～95
- オン／オフ設定では、オンのときボックスにチェックマークが入り、オフのときはボックスに何も入りません（上図ではすべてのチャンネルがオンに設定されています）。
- ステレオ以外のサラウンドモードのとき、チャンネルパンをMIDIコントロールすることはできません。

＊リングエンコーダー機能の選択

リングエンコーダーの機能は、４つのエンコーダーモードキーを使って選択します。（ →取扱説明書 18ページ「リングエンコーダー」）

従来のバージョンでは、各エンコーダーモードキーの脇に表記されているパラメーターが割り当てられましたが、V1.20ではエンコーダーモードキーに割り当てるパラメーターを選択できるようになりました。

パラメーター選択は、OPTIONS画面に新たに追加されたENCODER MODEサブ画面を使って行います。

1. OPTIONキーを使ってOPTION画面を表示し、POD4キーを使って（あるいはOPTIONキーを押していって）ENCODER MODEサブ画面を表示します。

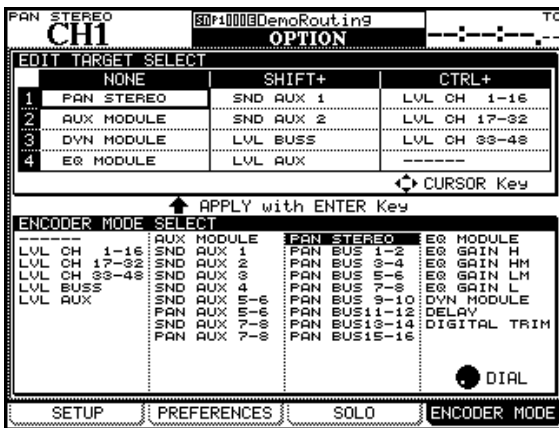



図12：OPTION→ENCODER MODE画面

2. カーソルキーを使って、EDIT TARGET SELECTセクションの中から編集対象を選択します。
   行番号１～４は、エンコーダーモードキー（上から順）の番号を示しています。また“NONE”、“SHIFT＋”、“CTRL＋”は、それぞれ「エンコーダーキー単独押し」、「SHIFTキーと同時押し」、「CTRLキーと同時押し」の場合を示しています。
   たとえば「SHIFTキーを押しながら一番上のエンコーダーモードキーを押したとき」のパラメーターを設定したい場合は、“1”行と“SHIFT＋”列の交わるフィールドを選択します。
   画面下部のENCODER MODE SELECTセクションでは、選択した編集対象に現在割り当てられているエンコーダーモードが反転表示します。

3. JOG/DATAダイヤルを使って、上記の編集対象に割り当てるエンコーダーモードをENCODER MODE SELECTセクションの中から選択します。

メモ

ENCODER MODE SELECTセクションの選択肢は、サラウンドモードがSTEREOの場合とそれ以外の場合とで異なります。

4. ENTERキーを押します。
   設定が確定し、EDIT TARGET SELECTセクションの表示に反映されます。

メモ

設定したパラメーターをリングエンコーダーに割り当てるには、該当するエンコーダーモードキー操作を行う必要があります。

＊カスケード接続

V1.20から2台のDM-3200をカスケード接続できるようになりました。

カスケード機能概要

カスケード接続された2台のDM-3200は、あたかも1台のミキサーのように扱うことができます。

- STEREOバス、BUSS 1～16、AUXバス1～8、SOLOバスを共有できます（CASCADE画面において各バス毎に共有のオン／オフを設定可能）。
- オーディオクロックが共有されます。
- タイムコードが共有され、同期を行うことができます。
- 各種設定／動作が連動します（後述の「連動する設定／動作」参照）。

マスター／スレーブの設定

2台のDM-3200の一方をカスケードマスター、他方をカスケードスレーブに設定する必要があります。システム全体に関わる設定は、カスケードマスター側で行います。

- オーディオクロックソースは、カスケードマスターに入力されるクロックから選択します。カスケードスレーブでは、オーディオクロックソースを選択出来ません。
- カスケードスレーブに入力されるタイムコードは、同期ソースとして使用できません。
- カスケード接続のオン／オフは、カスケードマスターからのみ行うことができます。
- カスケード接続をオンにしたとき、カスケードマスターのパラメーター（連動するパラメーター）設定がカスケードスレーブに反映されます。

カスケード接続方法

V1.20以上の2台のDM-3200をカスケード接続する手順を説明します。

1. タスカムのカスケードケーブル（PW-1000CS）を使って、2台のDM-3200のCASCADE端子同士を接続します。

注 意

カスケード接続には、必ずタスカムのカスケードケーブルをお使いください。他のケーブルを使用した場合は、機器を破損する可能性があります。

2. 一方のDM-3200をカスケードマスター、もう一方をカスケードスレーブに設定します。
マスター、スレーブの設定を行うには、SCREEN MODE/NUMERIC ENTRY部のDIGITALキーを使ってDIGITAL画面を表示し、POD3キーを使って（あるいはDIGITALキーを押していって）新たに追加されたCASCADEサブ画面を表示します。この中のID項目をそれぞれMASTER、SLAVEに設定します。

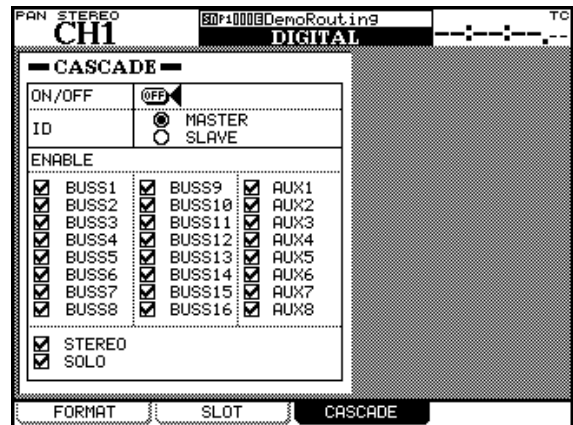



図13：DIGITAL→CASCADE画面

メ モ

ON/OFF項目がOFFの状態でID項目の設定を行ってください。ON/OFF項目がONのときは、ID項目の設定を変更できません。

3. カスケードマスター機のCASCADEサブ画面のON/OFF項目をONに設定します。
ON/OFFボタンにカーソルを合わせてENTERキーを押すと確認画面が表示されますので、画面指示を確認し、再度ENTERキーを押します。

メ モ

タイムコード走行中は、ON/OFF項目の設定を変更することができません。

4. カスケード接続が確立すると、ポップアップ画面（“Cascade connection established”）が表示されますので、ENTERキーを押します。

メ モ

2台のDM-3200が正しく接続されていない場合など、カスケード接続が確立できないと、ポップアップ画面（“Cascade Slave not found. Cascade connection not established”）が表示されます。

連動する設定／動作

連動する設定

カスケード接続中は、以下の設定が２台のDM-3200間で連動します。
上記の手順でカスケード接続を確立した直後は、カスケードマスターの設定がカスケードスレーブに反映されます。
その後はカスケードマスター、カスケードスレーブいずれかのDM-3200で設定を行った場合は、他方の設定に反映されます。
ただし、カスケード接続のオン／オフ設定は、カスケードマスター機からのみ可能です。

レイヤーステータス
フリップモード
エンコーダーモード
サラウンドモード
サラウンド5.1リアモノ
DIGITAL→CASCADE画面設定（ID項目を除く）
OPTION→SETUP画面の全設定（FADER SENSITIVITYを除く）
OPTION→PREFERENCE画面の全設定
OPTION→SOLO画面設定（INPLACE SOLO DEFEAT設定を除く）
OPTION→ENCODER MODE画面の全設定
METER/FADER→METER画面の全設定
LIBRARY SNAPSHOT画面のSNAPSHOT RECALL SAFE設定
AUTO SETUP画面の全設定
AUTOMATIONセクションのキー設定（WRITE、TRIM、ALL SAFE、REHEARSE、INITIAL EDIT）

連動する動作

カスケード接続中は、以下の動作が２台のDM-3200間で連動します。すなわちカスケードマスター、カスケードスレーブいずれかのDM-3200で操作を行った場合は、もう一方の動作が追従します。

スナップショット関連操作

呼び出し（RECALL）
保存（STORE）
削除（DELETE）

オートメーションの以下のキー操作

TOUCHキー
KEEPキー
REVERTキー
INITIAL EDIT DISCARDキー
AUTO FADEキー

＊GPI機能

V1.20からGPI機能がサポートされました。これによりDM-3200リアパネルの**GPI**端子（Dサブ９ピンコネクター）から８系統のGPI信号を出力し、外部機器をDM-3200からコントロールすることができます。
DM-3200では、各GPIポート毎にGPI信号を出力するトリガーを設定することができます。トリガーソースとして、フェーダーや**MUTE**キー操作、トランスポート操作、マシンコントロールキーのステータスや操作、タイムコード時刻などを選択することができます。

接続

リアパネルのGPI端子の仕様は、以下のとおりです。

ピン配列

ピン番号	機　能
#1	GPI出力ポート1
#2	GPI出力ポート2
#3	GPI出力ポート3
#4	GPI出力ポート4
#5	GND
#6	GPI出力ポート5
#7	GPI出力ポート6
#8	GPI出力ポート7
#9	GPI出力ポート8

出力レベル：5V

GPIの設定

UTILITY画面に新規追加されたGPIサブ画面を使ってGPIの設定を行います。

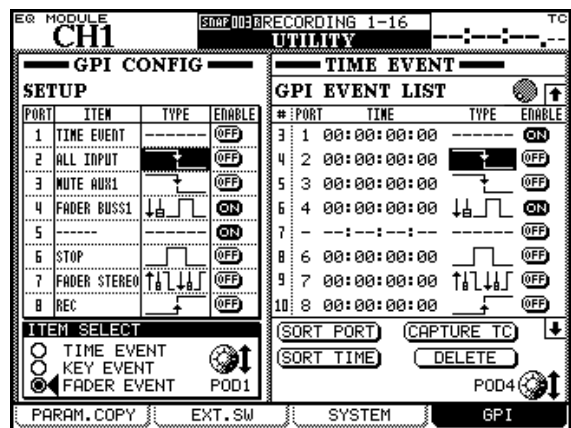



図14：UTILITY>GPI画面

画面左部のGPI CONFIGセクションでは、各ポートのGPI出力トリガーのアイテムとタイプ設定、およびGPI機能のオン／オフ設定を行います。
画面右部では、タイムコードによるGPI制御時のイベント設定を行います。

GPI CONFIG セクション

カーソルキーを使ってSETUPリスト内の欄を選択します。

アイテムの設定

SETUPリストのITEM欄で、各GPIポートを制御するアイテムを設定します。

1. あらかじめPOD1つまみを使って画面左下部のITEM SELECT部からアイテムタイプを選択します。

   TIME EVENT
   指定したタイムコード時刻でGPIポートを制御します。

   KEY EVENT
   トランスポートキー、F1～F12キー、MUTEキーの状態によってGPIポートを制御します。

   FADER EVENT
   フェーダーの状態によってGPIポートを制御します。

2. カーソルキーを使って希望のITEM欄を反転表示し、JOG/DATAダイアルを使ってアイテムを選択します。
   上記手順1で選択したアイテムタイプによって、選択肢が以下のようになります。

   TIME EVENT
   TIME EVENTまたはアサイン無し(------)

   KEY EVENT
   REW、FF、STOP、PLAY、REC、F1～F12、MUTE(CH1～48、BUSS1～16、AUX1～8)、およびアサイン無し(------)

   FADER EVENT
   FADER(CH1～48、BUSS1～16、AUX1～8、STEREO)、およびアサイン無し(------)

3 ENTERキーを押して確定します。

タイプの設定

SETUPリストのTYPEコラムで、各ポートから出力される波形タイプを設定します。
カーソルキーを使って希望のTYPE欄を反転表示し、JOG/DATAダイアルを使ってアイテムを選択します。
アイテムタイプによって、選択肢が以下のようになります。

TIME EVENT

TYPE欄は"------"表示になり、タイプ設定は画面右側のGPI EVENT LIST内で行います。

FADER EVENT

：フェーダースタート時にローパルスを出力
：フェーダースタート時にハイパルスを出力
：フェーダーストップ時にローパルスを出力
：フェーダーストップ時にハイパルスを出力
：フェーダースタート／ストップ時にローパルスを出力
：フェーダースタート／ストップ時にハイパルスを出力
：フェーダースタート時にローレベルに変化、フェーダーストップ時にハイレベルに変化。
：フェーダースタート時にハイレベルに変化、フェーダーストップ時にローレベルに変化。

注 意

- フェーダースタートとは、フェーダーを最小位置から上げたとき。
- フェーダーストップとは、フェーダーを最小位置に下げたとき。
- 出力パルス幅は、約150ms。

KEY EVENT

：キーステータスが変化したときにローパルスを出力。
：キーステータスが変化したときにハイパルスを出力。
：キーステータスがオンになったときにローレベルに変化、オフになったときにハイレベルに変化。
：キーステータスがオンになったときにハイレベルに変化、オフになったときにローレベルに変化。

注 意

- 出力パルス幅は、約150ms。
- F5～F8は、ローパルス出力／ハイパルス出力の2択のみ

オン／オフ設定

各ポートの設定を実行するかどうかを選択します。
TYPEがTIME EVENTのときは常にOFF表示となり、オン／オフ設定は画面右側のGPI EVENT LIST内の設定に従います。

＊TIME EVENTセクション

最大16個のタイムイベントを設定することができます。
タイムイベントの設定は、GPI EVENT LIST内で行います。

GPI EVENT LIST内の操作方法

- リスト内のカーソルの上下移動には、上下カーソルキーまたはPOD4を使います。
- リスト内のカーソルの左右移動（コラム間移動）には、左右カーソルキーを使います。
- リスト右の上下に矢印が表示されている場合は、画面表示外にタイムイベントが存在します。リストを上下にスクロールするには、POD4を使います。上下カーソルキーでは、リストのスクロールができません。

ポートの設定

GPI EVENT LISTのPORTコラムでGPIポートを設定します。GPI CONFIGセクションでアイテムがTIME EVENTに設定されているポートのみ設定可能です。カーソルキー（またはPOD4）を使って希望のPORT欄を反転表示し、JOG/DATAダイアルを使ってポートを設定し、ENTERキーを押して確定します。
複数のタイムイベントに対して同じポートを設定することもできます。

時間の設定

イベントを実行する時間を設定します。
カーソルキー（またはPOD4）を使って希望のTIME欄を反転表示し、JOG/DATAダイアルを使って時間を設定し、ENTERキーを押して確定します。

タイプの設定

各ポートから出力される波形タイプを設定します。
カーソルキー（またはPOD4）を使って希望のTYPE欄を反転表示し、JOG/DATAダイアルを使ってタイプを選択します。

：指定時間になったときにローパルスを出力。

：指定時間になったときにハイパルスを出力。

：指定時間になったときにローレベルに変化。

：指定時間になったときにハイレベルに変化。

オン／オフの設定

各ポートの設定を実行するかどうかを選択します。

GPI EVENT LISTの編集

画面右下部のボタンを使ってGPI EVENT LISTを編集することができます。ボタンが反転表示中にENTERキーを押すと編集が実行されます。

SORT PORT

GPI EVENT LISTをポート番号順に並び替えます。

SORT TIME

GPI EVENT LISTを時間順に並び替えます。

CAPTURE TC

反転表示中のタイムイベントのTIMEを現在のタイムコード時刻に設定します。

DELETE

反転表示中のタイムイベントを削除します。

メモ

CAPTURE TCまたはDELETEをカーソルが指しているとき、JOG/DATAダイアルを使ってGPI EVENT LIST内をスクロールすることができます。このときリスト右上のJOG/DATAダイアルアイコンが黒く表示されます。

＊ダイナミクスオートメーションの拡張

ダイナミクスオートメーション対象パラメーターの追加

ダイナミクスオートメーションの記録／再生対象として、以下のパラメーターが追加されました。（→DM-3200オートメーションガイドの3ページ「オートメーションの対象」）

- IMAGEパラメーター
  リンクチャンネルのIMAGE**パラメーター**
  （→DM-3200取扱説明書76ページ「パンとバランス（PAN、BAL)」）
- エフェクトパラメーター
  共通**パラメーター**（TYPE、INPUT、MIX、BYPASS、OUTPUT）および各エフェクト**パラメーター**
  （→DM-3200取扱説明書89ページ「エフェクトを設定する」）
- アサインスイッチ
  BUSS、ステレオへのアサインの他に、BUSS／ステレオバスからのAUX 1-2へのアサイン、サラウンドのアサイン設定やCSP／LFEスピーカー・オン／オフ設定を含みます。
  （→DM-3200取扱説明書53ページ「チャンネルのバスアサイン」、83ページ「チャンネルをサラウンドバスにアサインする」）
- 上記の**パラメーター**の中で連続可変タイプの**パラメーター**に対しては、リバート機能が働きます。
- 各**パラメーター**は、AUTO CONFIG画面内では以下のアイテムに属します。（→DM-3200オートメーションガイドの12ページ「AUTO CONFIG画面」）

パラメーター	アイテム
IMAGE	PAN/BAL
アサインスイッチ	BUSS ASSIGN
エフェクト1パラメーター	EFFECT1
エフェクト2パラメーター	EFFECT2

初期状態として再現されるパラメーターの追加

以下の**パラメーター**設定がオートメーションの初期値として保存／再現されるようになりました。（→DM-3200オートメーションガイドの29ページ「初期状態」）
これにより、すべてのスナップショット対象**パラメーター**が初期値として保存／再現されるようになりました。

コンプレッサーのトリガーソース
ゲートのトリガーソース
ROUTING→INPUT画面の設定
ROUTING→OUTPUT画面の設定
ROUTING→INSERT画面の設定
パンモードの設定
サラウンドパンモードの設定
ダイレクトアサイン設定
パンのギャングスイッチ設定
デジタルトリム値設定
フェーズ設定
モノスイッチ設定
チャンネルディレイ値設定
チャンネルディレイ・プリ／ポスト設定
BUSS/AUX信号のステレオバス送りレベル
BUSS/AUX信号のステレオバス送りパン

オートメーション再生中の設定変更禁止項目

オートメーション再生中に、以下のミキサー設定を変更することはできません。

サラウンドモード
グルーピング設定
チャンネルリンク設定

パンスイッチ設定［SHIFT＋OUTPUT ASSIGNによる設定］
これらの設定を変更しようとすると、以下の警告画面がポップアップ表示され、変更を受け付けません。

Cannot do this□
while automation is running.

V1.10の追加

＊DAWリモートコントロール

DM-3200リモートレイヤーを使用したDAWリモート・コントロール機能に対応しました。DigiDesign Pro Tools, Cakewalk SONAR, MOTU Digital Performer, Steinberg Nuendo & Cubase, Logic Proに対応しています。
これらのDAW対応用にそれぞれPDFフォーマットのマニュアルを用意しています。詳細につきましては、それぞれのマニュアルをご参照ください。

＊プロジェクト ダイレクト ストア

プロジェクトのダイレクト・ストア機能に対応しました。
CTRLキーを押しながらLIBRARY SOTREキーを押すことによってダイレクトにストアすることができます。

＊プログラム チェンジNoのNo assign

プログラムライブラリNo.のアサイン無し“—”設定がバッチ・セットアップにて可能になりました。

＊MTC Generator: Return To Zero

Internal MTC Generator使用時にSTOPキーとREWキーを同時に押すことによりスタート時間にジャンプ可能になりました。

＊Meter Layer切り換え

METER/FADER画面にて、POD1を使用しメーターレイヤーの切り換えを容易にしました。

メンテナンス項目

V1.70の修正

- デジタル入力に信号が入力されていないときに、サンプリングコンバーターを有効にしておくと、デジタル出力端子から出力しない場合があった不具合を修正しました。
- ソロ切り換え時に、STUDIO OUTPUT端子からの出力音が一瞬ミュートしてしまう不具合を修正しました。
- RS-422コマンド（SONY P2プロトコル）送信時に、被制御側の機器において、期待通りの動作を行わない不具合を修正しました。
    - 被制御機が再生中にRECキーを押すと、EDIT ON状態になります。
    - 被制御機がEDIT ON中にPLAYキーを押すと、EDIT OFF状態になります。
    - 被制御機がEDIT ON中にRECキーを押しても、EDIT ON状態のままです。
- サンプリング周波数が44.1kHzまたは88.2kHz時に、ディレイエフェクトで設定したディレイ値が、実際の値と合っていない不具合を修正しました。
- 入力26、27、28、および32をバス8にアサインした後、アサインを解除する操作をしても、内部ではアサインされたままになっていた不具合を修正しました。また、この状態になったときに、入力1-16をバス10、11、12、16にアサイン／アサイン解除すると、バス8と10、バス8と11、バス8と12、バス8と16に同時にアサイン／アサイン解除される不具合を修正しました。
- “CONTROL ROOM SELECT”設定で、SEL1-6のいずれかに“DIGITAL IN1”、“DIGITAL IN2”、“2TR (ANALOG)”、“SLOT1 x-x”、または“SLOT2 x-x”がアサインされている状態で、“DIGITAL IN1”、“DIGITAL IN2”、“2TR (ANALOG)”、“SLOT1 x-x”、または“SLOT2 x-x”を選択したときに、オートメーションを再生する、またはスナップショットのリコールを実施すると、コントロールルーム出力およびスタジオ出力がミュートされてしまう不具合を修正しました。（“STEREO”をモニターとして選択している場合には、この症状は発生しません。）
- コントロールルームのモニターソースに“DIGITAL IN1”、“DIGITAL IN2”、“2TR (ANALOG)”、“SLOT1 x-x”が選択されているときに、スナップショットのリコールかオートメーションを再生すると、コントロールルームのモニターソースがSTEREO OUTに切り換わることがある不具合を修正しました。
- “STUDIO SETUP”の“OUTPUT”設定が“From CONTROL ROOM”のときに、“CONTROL ROOM SELECT”で（SEL1-6を使って）モニターソースを“DIGITAL IN1”、“DIGITAL IN2”、“2TR (ANALOG)”、“SLOT1 x-x”、“SLOT2 x-x”、“SLOT3 x-x”、または“SLOT4 x-x”に切り換えたときに、スタジオ出力にクリック音が発生する不具合を修正しました。

V1.60の修正

＊オプションスロットカード

- 88.2kHzあるいは96kHzで動作中に、マスタークロックの設定条件によりIF-TD/DMスロットカードで伝送する2チャンネル単位のオーディオ信号のODD/EVENが逆転する事がある不具合を修正しました。
- IF-FW/DM MKIIを**SLOT 1**に挿入し, IF-SM/DMを**SLOT 2**に挿入したとき、ミキサーが起動できない不具合を修正しました。
- IF-SM/DMを使用してのサラウンドモニター時にMONITOR SELキーを押したときにクリック音が発生する不具合を修正しました。
- IF-SM/DM使用時にベースマネージメントがオンの時にベースマネージメントのLPFを切り換えるとLFE出力にノイズが発生する不具合を修正しました。
- IF-SM/DMのモニターレベルを調整するとノイズが発生する不具合を修正しました。
- パネルのMONOキーを使用して、IF-SM/DMのダウンミックスのオン／オフを行うときに正しく動作しないことがある不具合を修正しました。
- IF-SM/DMの出力ゲインを上げてバスのミュートを行った時に、ミュートまでの時間が長くなってしまう不具合を修正しました。

＊リモートコントロール

- 内蔵のタイムコードジェネレータ（MTC Generate）走行中にマシンコントロールリストから**"MTC Generate"**を削除すると再登録するまでMTCを止めることが出来ない不具合を修正しました。
- ジッターを持っているMTC入力に対して同期精度を向上させました。
- MTC出力が30NDFの時に不正なタイムコードを出力してしまうことがある不具合を修正しました。
- MMCによるリモートコントロールでシャトルモードが正常に動作しない不具合を修正しました。
- ロケートメモリにロケート時間が正しくストアされないことがある不具合を修正しました。

＊ TMCompanion接続時のメンテナンス

TMCompanionのメーター画面が開いた状態でパソコンを再起動するとDM-3200が動作不能となる不具合を修正しました。

＊モニターセクション

- TO SLATEキーを押したときにフィードバック音が入る不具合を修正しました。
- TO SLATEキーやMONITOR SELキーを押したときにクリック音が発生する不具合を修正しました。

＊プロジェクト

- プロジェクトをロードした時に、パネル上のエンコーダーモードのLED表示がプロジェクトの設定通りに表示しない不具合を修正しました。
- シャットダウン動作時にカレントプロジェクトがプロテクトされていないのに

  "Current Project is protected"

  "Can't STORE current project."

  というポップアップメッセージが表示されてしまうことがある不具合を修正しました。

＊オペレーション

Fsを48kHzから96kHz（またはその逆）に切り換えたときにEQ設定が正しく音に反映されない不具合を修正しました。

＊工場出荷時設定

FADER SENSITIVITYの工場出荷時設定を3.3kHzから2.0kHzへ変更しました。

V1.50の修正

＊ MIDI FADERS,MIDI Ctrls

REMOTE→EXT.CTRL対応デバイス：MIDI FADERS,MIDI Ctrlsにおいて、MIDI→SETUP画面のフィルター設定に関わらずMIDIメッセージが出力されてしまう不具合を修正しました。

V1.30の修正

＊Project Property日付情報の変更

PROJECT Propertyで日付情報が表示されますが、今までのバージョンでは作成日時が表示されていましたが、最後に更新した日時を表示する様に修正しました。

＊CFカード

1Gバイト以上のCFカードの容量情報が正しく表示されない不具合を修正しました。

起動時にCFをフォーマットした時にCFカードのステータスが誤認識される場合がある不具合を修正しました。

Windows XPまたはMac OS 10.4.3でフォーマットしたCFカードのステータスが誤認識される不具合を修正しました。

＊プロジェクト

プロジェクト作成

カレントプロジェクトネームを編集して新規プロジェクト作成する時にプロジェクトが作成出来ないことがある不具合を修正しました。

プロジェクトロード

プロジェクトのロード時にコントロールルームソースを選択しているLED表示が正しく表示されない不具合を修正しました。

カスケードマスター／スレーブの関係が変わるプロジェクトをロードしたときにカスケード接続状態が不正になる場合がある不具合を修正しました。

＊リモートコントロール

Sonar4を使用した時のチャンネルCh 9-16画面テキスト表示

Sonar4をMackie Control modeで使用した時にチャンネル9-16画面で各モジュールのテキスト表示がされない不具合を修正しました。

Mackie Control protocolと他のコントロールデバイス共存時のStereo Fader操作

REMOTE→EXT.CTRLの対応デバイスの中でMackie Control protocolを使用するものとそれ以外のデバイスを同時に登録してリモートコントロールを行うときに、Mackie Control以外のデバイスをコントロール時にステレオフェーダーを操作すると、Mackie Controlデバイスが操作されたり、Mackie Control画面に切り替わってしまう不具合を修正しました。

MMC CHASEコマンド

MMCマシンコントロールのCHASEコマンドに対応しました。

P2プロトコルでVTRなどをコントロールし、レコーダーをタイムコード・スレーブにする様なセッティングのときにレコーダーをMMCコントロールに設定することでレコーダーへの録音が可能になります。

MACHINE CONTROL LIST

STATE	DEVICE	ID	CHASE	TRA	REC
⇔	4 VTR 2Trk REC	--	--	●	--
⇔	M MMC Full	01	☑	○	1-8

P2でのDTRS REC FUNCTION設定

P2でDTRSをコントロールするときに、9トラック以上のREC FUNCTIONの設定ができない不具合を修正しました。

MMCでのMX-2424のREC FUNCTION設定

MMCでMX-2424をコントロールするときに、正しくREC FUNCTION設定ができない不具合を修正しました。

＊オートメーション動作中のBUSS PAN Follows ST PAN切り換え禁止

オートメーション動作中にBUSS PAN Follows ST PANのオン／オフの切り換えを禁止するようにしました。オートメーション動作中に切り換えを行おうとするとポップアップメッセージが表示され切り換えを受け付けません。

ポップアップメッセージ

Cannot do this
while automation is running.

＊カスケード接続解除時のSlave Lock処理

カスケード接続を解除したとき、スレーブ機のクロックマスターがインターナルへ設定されるように改善しました。カスケード接続を解除しようとすると、以下のポップアップメッセージが表示されます。

ポップアップメッセージ

CASCADE Connection ended
Please choose new clock master.
Set Internal Clock?

Press ENTER to confirm,
or cursor key to cancel

ENTERキーを押すとインターナルに設定されます。

＊ライブラリ／オートメーションのLCD画面内のSTOREボタン

各LIBRARY画面内のSTOREボタンを押したときの動作がSTORE ASボタンを押したときと同様の動作となっていましたが、トップパネル上のSTOREキーを押したときの動作と同じにしました。

AUTOMATION→FILES画面内のSTOREボタンを押して保存する際のファイル名をKEEPキーで保存するときと同じに変更しました。

V1.20の修正

- IF-AN/DM card（アナログ入出力カード）使用時にROUTING→OUTPUT SLOT画面でSLOT trk1-4にBUSS1-4を設定するとSLOT5-8から音が出力する不具合に対応しました。
- Library Storeを行う際のName edit時にカーソルが名前入力不可部分へ移動してしまう不具合を修正しました。
- オートメーションの上書きStoreの時にファイルサイズが増えて容量が足りなくなると上書きされるファイルが削除されてしまう不具合を修正しました。
- AUTOMATION：ONでINT MTC Generatorを再生中に再度PLAYボタンを押すと画面左上の［AUTO］Iconが点滅状態になってしまう不具合を修正しました。
- サラウンド・モード時のASSIGN→BUSS画面サラウンド・パンがOffなのにOnと表示される場合がある不具合を修正しました。
- オシレーターのピンク・ノイズの音質が異なっている不具合を修正しました。
- PAN/BAL SURROUND画面において選択されていないサラウンド・セットのアサインをON/OFFすると画面上のLevel Bar表示が更新されてしまう不具合を修正しました。
- TC Reverbの**パラメーター**であるTAILDYを操作後にIR DLYを操作した時に画面を切り換えて戻るとTAILDYの表示値が変わる不具合を修正しました。
- プロジェクトが無い状態でオートメーション・データを作成した後にプロジェクトをロードしたり、新規プロジェクトを作成すると、オートメーション・データを失ってしまう不具合を修正しました。
- KEEP動作でオートメーション・データを保存する時に同名で保存されてしまう場合がある不具合を修正しました。
- EXT. CTRL画面で２つのDAW Controllerを追加してID: ２のDAW Control画面を表示した後、EXT.CTRL画面でID: ２のDAW Controllerを削除してからREMOTEレイヤーに切り換えるとFatal Errorが発生する不具合を修正しました。
- ASSIGN→BUSS画面でダイヤルまたはカーソルでチャンネル選択を行うと、画面カーソルで選択されているチャンネルと実際に選択されているカレント・チャンネルが一致しない不具合を修正しました。
- Mackie Control for Steinbergでエンコーダ・モードにCH SENDSを選択した時にカレント・エンコーダー・モード表示部（LCD左上）へREM DYNを表示されてしまう不具合をREM SENDSが表示される様に修正しました。
- Mackie Control for Steinbergでエンコーダ・モードにPANを選択した時、カレント・エンコーダー・モード表示部（LCD左上）REMOTEと表示してしまう事がある不具合を修正しました。
- Mackie Control for Sonarでエンコーダ・モードにPANを選択した時、カレント・エンコーダー・モード表示部（LCD左上）REMOTEと表示して事がある不具合を修正しました。
- オートメーションでイニシャル・エディットから抜けられなくなる場合がある不具合を修正しました。
- TDIF-1 1, TDIF-1 3, ADAT入力のCh1-2とCh3-8でサンプルずれが発生していた不具合を修正しました。
- オートメーション操作でKEEPを実行した際、CFカードに空き容量が無くなり**“Can't store automation data”**が表示された後だとAUTOMATION→FILE画面のListをスクロールするまで選択されたファイルがRecallできない不具合を修正しました。
- オートメーションファイルをStoreした際、CFカードの空き容量が無くなり**“Can't store automation data”**が表示された後にAUTOMATION→FILE画面から他の画面に切り換えて戻るとカレント・ファイルのファイル名とメモがStore操作をした際に設定したファイル名／メモになってしまう不具合を修正しました。
- CFカードの空容量が不足している状態でオートメーション・データをStoreして**“CF Card Is Full”**のワーニング・メッセージが表示された後、Clearを実行してタイムコードを一回も走行させせない状態でStoreを実行すると、不正なオートメーション・データがStoreされてしまう不具合を修正しました。
- MONITOR→OSC/COM画面のT/B SOURCEで現在選択されていソースと違うソースを表示する場合があった不具合を修正しました。
- ワードシンクにて外部同期時にクロックマスター機のピッチをマイナス方向に変化させるとDM-3200に表示されるピッチ表示が－0.1ずれる不具合を修正しました。
- MODULE→DYNAMICS画面のTRG SELでTRG6が選択できない不具合を修正しました。
- DAW Control画面で表示されているPORT番号が間違っていた不具合を修正しました。
- EXT. CTRL画面でDeviceを追加した直後にRemoteキーを押すとremote画面の操作が出来なくなる不具合を修正しました。
- HUIやMackieのRemoteが設定されている状態で、リモート・コントロール以外の画面の時に、JOG/SHUTTLEキーを押すとSCRUB SWが出現する不具合を修正しました。
- サラウンド・モードがSTEREO以外の時にLIBRARY→SNAPSHOT画面で表示されるPANがSTEREO PANの表示になっていた不具合を修正しました。
- CTRLキー＋ STOREキーによりProjectのStoreを実施した際、PROTECTされているProjectに保存可能な場合がある不具合を修正しました。
- DM-24 Digital outputをDM-3200のMaster clockにした時、IF-AD/DM, IF-TD/DMにてチャンネルのOdd/Evenが反転する不具合を修正しました。
- MX-2424を接続し、Clock masterをMX-2424にした時にIF-AD/DM, IF-TD/DMで受信するチャンネルのOdd/Evenが反転する不具合を修正しました。

その他の注意事項

V1.60の注意事項

＊P2でコントロール時のDTRS REC FUNCTION設定

複数のDTRS機を接続してREC FUNCTION設定を行う場合は、9トラック以降のREC FUCTIONをDTRS側で操作すると、そのステータスがミキサーに反映されません。

＊MMCコントロール対象のAUTO DETECT

MMC Full（Closed-loop）コントロールを行っているProjectをロードする場合は、接続機器がMMCコントロール可能な状態にしてからロードしてください。

また、電源投入も接続機器の電源を先に入れてからミキサーの電源を入れてください。

接続機器の準備ができていないとコントロールのステータスが正しく表示されず、操作ができない場合があります。

＊パソコンとのUSB接続

DMとUSB接続しているパソコンをスタンバイ（Windows XP）、休止状態（Windows XP/Windows Vista）、またはスリープ（Windows Vista/Mac OS X）状態にすると、その後DMのUSB-MIDIポートと通信ができなくなります。

その際は、下記のようにすることでDMのUSB-MIDIポートと通信できるようになります。

MacOSXの場合：

USBケーブルを一度外してから接続し直した上で、DMのUSB-MIDIポートと通信するアプリケーションを再起動させてください。

Windows XP もしくは Windows Vistaの場合：

DMのUSB-MIDIポートと通信するアプリケーションを再起動させてください。

この問題を回避するために、パソコンが自動的にスタンバイ／スリープ／休止状態にならないように設定してください。

＊IF-AE/DMクロックマスター設定時の注意

IF-AE/DMの入力の1つをクロックマスターに選択しているときに、クロック設定部のラジオボタンを他のIF-AE/DMの入力信号へ移動させると、オーディオ信号ラインにノイズが発生しますので、他の入力信号を選ばないようにしてください。